



—北アフリカ地域ニュース—

エジプト：抗議活動の継続とムバーラク大統領の動き

研究員 江崎 智絵

1月29日付ハアレッツ紙は、ムバーラク大統領の2名の息子は、ロンドンに到着した。同大統領夫人もエジプトを出国して、ロンドンに到着すると伝えられた。ムバーラク大統領の決断の行方が注目される。

1. 抗議活動の継続

2011年1月25日にエジプトで発生した抗議活動は、現在も続いている。

1月28日、金曜日のイスラム礼拝後に抗議活動を行う呼びかけがFaceboofを通じてなされ、それに呼応して発生した抗議活動は、エジプト各地で大規模な治安部隊との衝突へと発展した。30日付英発行アッシュアルクルアウサト紙によれば、これまでにカイロでの100名とアレクサンドリアでの30名を含む少なくとも150名が死亡、1,000名が負傷したと報じた。

1月29日からは、軍隊が警察に替わりカイロ市内に展開され、戦車も配備された。カイロ中心部のタハリール広場上空には、戦闘機が飛来し、デモ隊の動きを監視している模様。30日、ムバーラク大統領は、治安関係者らと情勢について協議し、警察に現場への復帰を指示した。

カイロ市街では、市民による銀行、飲食店、旅行代理店等への不法侵入と金品等の略奪行為が横行し始めた。脱獄した囚人もそうした行為に加わっている模様で、1月30日までに各地の刑務所から1万2,000名程の囚人が脱獄していた。

日本、米国、英国、仏国、中国、オーストラリア、アルゼンチン、北欧諸国の政府は、エジプト在住の自国民に対して、国外退避勧告を発出した。米国等は、1月31日から政府のチャーター機で自国民を国外退去させ始めた。

2. ムバーラク大統領の動き

1月29日、ムバーラク大統領は、大統領の退任を求める抗議活動が続く中で内閣を総辞職させた。そして、同大統領は、オマル・スレイマーン諜報長官を副大統領に任命し、元空軍司令官のアフマド・シャフィークを首相とする内閣を発足させた。また、同大統領は、シャフィーク内閣の発足に際して、「政治改革、人々の要求への対応、経済改革及び民主主義の確立」を新内閣の柱とするよう言い渡した。

1月30日にはムバーラク大統領、スレイマーン副大統領及びシャフィーク首相の会談が行われ、情勢の安定化、失業対策、雇用創出策及び汚職対策への取組みを政府の優先課題とすることで合意された。

ムバーラク大統領がスレイマーン諜報長官を副大統領に任命した背景については、2つの見方がある。まず、これは、本年9月に実施予定の次期大統領選挙を視野に入れた動きであり、ムバーラク大統領は、後継者の選択肢が同大統領子息のガマールのみではないことを人々に印象付けようとしているというものだ。次に、同大統領は、自身の退任を考慮しているが、自身が退いた後の体制については現状を維持したいと考えており、そのために、自身の思想・政治的立場に近いとみられるスレイマーンを副大統領に据えたというものだ。

3. 今後の動向

スレイマーン諜報長官の副大統領就任を受け、抗議活動は、スレイマーン自身にも退任を求め始めたようだ。同時に、ムバーラク政権による統治は崩壊に近い、との見方が増え始めた。

現在、抗議活動の参加者が今後の指導者を擁立したとの動きは見られない。野党のムスリム同胞団は、挙国一致内閣の発足に期待感を表明したが、現時点でそれに向けた強力なリーダーシップはみられない。また、政権とデモ隊の要求を仲立ちできる人物としてエルバラダイ元IAEA事務局長が浮上しているが、同人は、国内的な政治基盤が弱いとされている。